

課題研究の中で環境変化について調べた。その中で北東北の鉱山事業が現在までにもたらしている影響と事業について調べた。6月13日に八幡平、松尾鉱山跡地。同日、尾去沢鉱山、小坂鉱山と巡った。写真から学ぶことその背景に何があったのかなど調べ、自分らの研究の材料とするべくした。

【1 枚目 6月13日撮影】尾去沢鉱山

当時、鉱山から発掘された金属等を製錬した際に出た硫黄で周囲の山と比べて木が薄くなっている。閉山から幾年も経っているが現在もその爪痕がはっきりと見て取れる。写真は製錬時に使用していた煙突周辺である。

【2 枚目 6月13日撮影】松尾鉱山跡地

戦後に建てられたコンクリート造りのマンション。撮影は屋上から行った。閉山後も取り壊されずに風化している現在。屋内には当時のカバンなどが放置されており、鉱山事業撤退と共に建物自体も捨てられたことが顕著にみられた。

【3 枚目 6月13日撮影】小坂精練周辺

鉱山事業と鉄道などが起こった地域。現在はその処理と共に都市鉱山の開発などを行っている。写真は4枚目の工場近くの現場を映したもの。都市鉱山開発の能力は過去の鉱山事業の技術を転用した、日本でも有数の技術である。

【4 枚目 6月13日撮影】小坂精練工場

小坂精練での都市鉱山の採掘技術は、様々な金属から特定の金属を取り出すことに長けている。過去の鉱山事業で培ったことを生かし現在も稼働しているのは、鉱山開発からみた一つの利点ではないだろうか。写真は先述したように、工場を映したものである。

鉱山開発における爪痕や弊害、また過去から受け継いだ現在世界に誇るべき技術を体験した。環境への影響などについては表裏一体、光と影の側面が見えた体験でもあった。硫黄での影響はやはり目に余る部分かもしれない。しかし、過去の技術を生かした都市鉱山の採掘に関しては個人的には、未来につなぐ大切なことだと感じた。